

## 大豆備蓄対策事業（継続）

【平成19年度概算決定額 340（533）百万円】

### 対策のポイント

大豆を備蓄し、大豆の一時的な需給のひっ迫時に備蓄大豆を放出することで、国民生活に不可欠な食料である大豆及び大豆加工品を国民に安定的に供給します。

（世界・日本の大豆の輸出入状況）

- ・ 世界の大豆輸出国・・・米国（約4割）、ブラジル（約3割）、アルゼンチン（約1割）で全体の約9割
- ・ 世界の大豆輸入国・・・中国（約4割）、EU諸国（約2割）、日本（約1割）で全体の約7割
- ・ 日本の大豆自給率・・・5%（平成17年度）で大部分を輸入に依存
- ・ 日本の大豆輸入先・・・米国（約7割）、ブラジル（約1割）で全体の約9割

### 政策目標

食品用大豆の年間需要の約1ヵ月分を民間流通在庫と備蓄分で確保

### <内容>

（社）大豆供給安定協会が自ら備蓄大豆を所有し、3.5万トン（食品大豆の利用業界における民間流通在庫の最新の実態（年間需要の約17日分）を考慮して、備蓄分は年間需要の約2週間分）の輸入大豆の備蓄を実施します。

また、3.5万トンのうち、試行的に非遺伝子組換え大豆を1,800トン備蓄します。

[担当課：総合食料局食品産業振興課（03-3502-8206（直））]